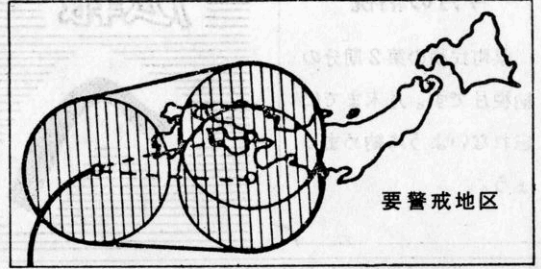


# 台風にもなれて

台風のシーズンは6月～10月ですが、なかでも8月がラッシュです。わが国は、台風の“通路”に当たり毎年被害がでています。

この機会に、台風災害から身を守るために、進路予想図の見方、台風の風の強さ、いざ／というときの、“非常用品”について、ご紹介しましょう。



## 進路予想図の見方

テレビや新聞で見ると、ある程度の幅をもった扇型をしています。ところで、問題は、この扇型予想図の見方です。気象庁の話によりますと、かつて「自分の居住地域は、扇の外側だから安心」とタカをくくっていた、大きな被害を受けたケースがあるということです。これは、不幸にして見方が間違っていたために起きた悲劇といえます。

この扇型予想図は、あくまでも台風の「中心(目)」が進む可能性のある地域を表すもので、扇の内側を台風が通り、外側は安全と

いうことではないのです。つまり、半径二百キロや三百キロという大型台風の場合、「目」の位置は扇型の中でも、暴風雨圏は、扇型の外に広がります。ですから、といって安心はできません。予想図を見たなら、扇型のいちばん端を台風の「中心」が通ると仮定し、地図の上にコンパスで半径をとって円を描くと、自分の地域が暴風圏内か圏外か、はっきりします。

一度、自分で、測量してみませんか。

## 台風の右側と左側では風の強さがちがう

水が高い所から低い所に流れるように、風も気圧の高い所から低い方に向かって吹きます。

台風は、中心付近の気圧が異常に低くなっているところへ、周りの空気が猛烈な勢いで吹きこんでいます。これが、地球の自転の関係で、北半球では左巻きのうずになり、南半球では右巻きのうずになります。

水が高い所から低い所に流れるように、風も気圧の高い所から低い方に向かって吹きます。

これは、うず巻きの風の方向と台風を押し流す一般の風の方向が右側では「追い風」に、左側では「逆風」になるためです。



### 台風の大きさの分類

| 程度          | 単位 km                        |
|-------------|------------------------------|
| 超大型(非常に大きい) | 風速25m/s以上の半径(参考) 400 またはそれ以上 |
| 大型(大きい)     | 300                          |
| 中型(並み)      | 200                          |
| 小型(小さい)     | 100 前後                       |
| ごく小さい       | —                            |

昔から船乗りは、台風の進行方向の右半円を「危険半円」、左側を「可航半円」といって、海上では常に左側に入ろうとしたのもこのためです。

さて、右側と左側の風の強さの違いはどのくらいかといいますと、最大平均風速が十三～十四メートルの差が過去に記録されています。ちなみに、風速が二十メートルと三十メートルとではどのくらい違つかというと、風速二十メートル

### いざ／という時の非常用品

いざ避難／という時に備えて、少なくとも次のような非常用品の用意をしておきましょう。

▽懐中電灯▽トランジスタラジオ

オ(予備の乾電池も)▽当面の食料品(インスタント食品・かん詰めなど、かん切りも)▽水筒▽赤ちゃん用ミルク、お湯▽応急医薬品(かぜ薬・胃腸薬・傷薬・消毒薬、ガーゼなど)▽現金▽預金通帳▽その他の貴重品▽ビニール袋▽リュックナーなど

### 台風の強さの分類

mb = ミリバール m/s = 秒速

| 階級    | 中心気圧       | 最大風速(参考) |
|-------|------------|----------|
| 弱     | 990 mb 以上  | 25m/s 未満 |
| 並     | 960～989 mb | 25～34m/s |
| 強     | 930～959 "  | 35～44 "  |
| 非常に強い | 900～929 "  | 45～54 "  |
| 猛     | 900 mb 以下  | 55m/s 以上 |

ルでは大人なら体を丸めて姿勢を低くすれば、なんとか進めます。これが風速三十メートルになりますと、歩けないどころか立ってもおれず、戸外に立っているのは危険で、雨戸が倒れるほど、ときには木造家屋が倒れるほどの強さです。

右側と左側とは、このくらいの差があるものと考え、台風の進行方向に注意しながら、それ相應の準備を怠りなく。